

ブラジル社会経済史論

—— 年表を中心とした ——

今 西 正 雄

この発表は過去数年の資料の検討と現在きわめて乏しい社会経済史研究のための基礎的資料として作成したものである。

もともと、同年表はブラジルを中心に考察したものであるが、今後ラテン・アメリカのくにスペイン領の推移さらにアメリカ合衆国の重要事項が附加されねばならないことを一言しておきたい。これが同学者の研究のための一助となれば幸甚とする次第である。

表1 ブラジル社会経済史の時代区分 (基本的資料)

	フルタード	ブラード	カロジェラス	シモンセン
1500 〔植民地時代〕	(領土占領と経済的基盤) 商業的發展 農業企業 農業の成功の模索	ブラジルの地理的性格(1500-30) 現実の占領	ブラジルの発見 経済的収奪 植民地経済組織	先駆期(欧州史と対照) ポルチュガル及エスピナの経済事情 サンタ・クルス(ブラジルの旧称)の土地利用 植民地政治 砂糖時代 植民地時代の労働力
1600	独占の基盤 独占体制の崩壊(エスピナ及オランダ戦)	植民地の拡大(1640-1770)		その他の農産物(牧畜業) 牧畜業の前進 パウリスタの発展と基盤 鉱業時代とその基盤
1700	北部地方への植民 鉱業の奴隷経済 カプリ海の砂糖産業の発展	植民地の完熟(1770-1808)		アマソナスへの発展 植民地商業 ジョアン四世 経済的自主性と政治的主権
1800 〔独立〕	賃金労働制への転化 植民地時代の終焉	自由主義時代(1808-1850) 奴隷帝国と初期ブルジョア(1850-1889)	リオ市首府となるブラジル独立	

	フルタード	ブラード	カロジェラス	シモンセン
[工業化]	コーヒー産業の 発展		La Plata の紛争 ペードロー世の退位	
[ブルジョア の登場]		ブルジョア-共和 国 (1889-1930)	[摂政時代] 政治・経済問題 奴隷貿易と禁止 バラグアイ戦	
1900	工業化への転化 コーヒー経済の危 機		政変と奴隷問題・ 奴隷廃止	
(1930)	1929恐慌期の 対策	組織的危機 (1930?)	-軍部問題・共和 制宣言-	
[社会運 動抬頭]	国際的不均衡と その拡大 (インフレの二 重性格)	三月危機 (1956)	国家再建 軍部の再起 市民政治の勝利 最近10年のブラ ジル史	
	次の20年の見 通し			

表 II ブラジル社会史年表 (*印は考証事項)

1375	ポルトガルは*「セズマリア法」を制定。
1385	ポルトガル王国建設される。
1450	西欧諸国はエスパナ、ポルトガルを中心に海外探検に乗り出す。
1493	教皇アレサンドレ四世は「トルデセヤス」条約を制定(5月3日)
1497	ポルトガルのヴァスコ・ダ・ガマ印度航路を開拓す。
1501 [植民地 時代]	ペドロ・アルヴァレス・カブラル、ブラジルを発見し、Pau Brasil を持 ち帰る。
1503	アメリコ・ヴェスプシコの探検・サン・ヴィセンテ 建設される—多くの探検 始まる。*「パウ・ブラジル」次第に商品となる。

- 1504 最初の*「パンデイラス」ブラジルの奥地に入る。
- 1504-16 フランス艦隊の出現、探検に従事す。
- 1532 国王ジョアン三世は十二人の大貴族に*Capitães donatárioを与え、*「封建的体制」の樹立を企図する。最初の基地「サン・ウァセンテ」に建設される。
- 1534 Doação の最初の特許状がベルナムブコに与えられ各地に広がる。一大土地所有制の原型登場する。「砂糖、タバコ」の栽培、「家畜」輸入始まる。当時の白人は約3千人と推定されるが、労働力の不足は深刻化する。
- 1536 宗教裁判により多数のユダヤ人は資本を持参してブラジルに渡る。その中心地はベルナムブコ地域。主として奴隷売買に従事する。
- 1548 各地の*「カピタニウス」の経済的失敗と諸外国の侵略にそなえ、「カピタニウス」を王室に収用し、新たに*「総督Governo Geral」をバイーアにおき、初代総督にトメ・デ・サウザが就任し、約1千人の(移民、聖職、ゼスイト、貴族、技術者を含む)を誘致する。その後、インディオスとの斗争が続くが、この頃より「セズマリア」次第に制度化される。
- 1549 最初の都市「サルヴァドル」建設される。
- 1550 ヨーロッパの砂糖需要は急増し、その最適栽培地帯ノルデステ(北東部)は急速に開発される、一労働力不足のためアフリカ奴隷の輸入さかんとする。当時の本国人口は約200万人で、海外貿易関係はインドが重視された。
- 1552 バイーアに最初の司教任命される。サルヴァドルとリオに総督府を設置。
- 1565 リオ・デ・ジャネイロ市建設される。
- 1573 サルバドールに総督府を統合。この頃より都市の建設は増加し、*牧畜業も勃興する。
- 1580-
1640 ポルチュガルはエスパナの支配下に入る一印度貿易は急激に衰退し、ブラジルの評価高まる。この頃、砂糖生産は盛大となり各地に*「砂糖産業→砂糖貴族」が出現し、同時に家父長制の*「カーザ・グランディ Casa Grande」も登場する。砂糖・タバコの輸出と黒人奴隷の輸入は急激に増加する。さらに貧困白人の*「パンデイラス」運動も次第に盛んとなり、奴隷狩り、貴金属、宝石の発見に従事する。

- 1609 国王フィリッペⅢーブラジル原民の奴隷禁止を公布する。但し後に取消される。
- 1610 ゼスイト教団はパラナ州に進出し、各地にゼスイト部落をつくる。これと平行して「バンデiras」の奴隷狩も活発となる。
- 1622 *Bandeiras paulista はミナス・ジェライスで*「金およびダイヤモンド」を発見する。
- 1628-38 バンデiras運動はアンデス山脈に到達し、ブラジル領土を次第に形成する。この間ゼスイト部落襲撃される。
- 1650 黒人奴隷の反乱は頻発し、その逃亡奴隷によって奥地にQuilombos出現する。当時の黒人奴隷の年間売買は約1万6千人に達す、レシーフェが中心市場となる。またアマゾナスの香料もよりやく開発される一主としてゼスイト教団の活躍による。
- 1624-1654 *オランダの侵略→砂糖地帯ノルデスタを占領し、土地の貿易を独占するとともに、砂糖業主に高利資本を貸付け、深刻な打撃を与える。多数の奴隷の逃亡続出する。この頃ブラジルの領土ほぼ完成する。
- (1652) (オランダ対イギリス戦始まり、オランダは次第に衰退する)
- 1653 ゼスイト教団の迫害始まる。バンデirasは地主と協力してオランダの勢力を打倒し、次第に自由独立の精神を養成する。*同時にイギリスの勢力増大する。
- 1660 *ゴイアスおよびミナス・ジェライスの「金・ダイヤモンド」の生産は急増し、ポルトガル移民は激増し、これの食糧として牧畜業発展する。
この頃よりキューバ砂糖開発され、ブラジル砂糖は大打撃を受ける。他方奴隷の価格は急騰し、ノルデステ地方は衰退に向う。なお、この頃ポルトガルは印度を失う。
王室はCia.Geral Comêrcis do Brasil をブラジルに設立し、その貿易を独占するが、ブラジル人の反感たかまる。
- 1680 ポルトガルの収奪的重商主義は強化され、*「金およびダイヤモンド」には1/5の重税が課せられる。(農業は1/10税)
- 1690頃 ブラジルの総人口は約30万、首都パイアでは3万人を数える。
- 1695 総督府は大軍を派遣しQuilombo の中心地を攻撃し、多数を奴隷にする。
- 1703 *本国とイギリス間に通商条約(Meshuen)が成立し、イギリス商品はブラ

- ジルに大量輸出され、ブラジルの初歩的マニファクチュアは破壊される。
- 1707 サン・パウロ市に独立運動(Emboabas)勃発する。
- 1710 レシーフェの商人たちは大地主に對抗して、市会を建設する。
(Guerra das Mascates)
- 1720 独立運動は鉱山地帯のミナス・ジェライスまたベルナムブコ地帯にも発生する。
- 1729頃 ブラジルの産金は最盛期に入るが、王室の取奪、浪費により、ブラジルの資本蓄積は低調。* コーヒーは上流社会の飲料として栽培される。
- 1750 ボムバール時代始まる。エスパナとポルチュガルは新世界の国境を協勝する。ブラジルはリオ・グランディ・ド・スール地方を確保す。この頃まで王室の主権は堅固であった。
- 1775 Cia Geral do Grão-pará e Maranhão 設立—アマゾナス地帯の開発に着手する。同年リスボアに大地震勃発し多くの人命と財産失われる。
- 1759 ゼサイト教団は反政府陰謀の罪を問われ、母国および植民地より追放され完全に抹殺される。ヨーロッパの自由思想はしだいにブラジルに波及する。
- 1763 Conde do Cunha にブラジルの副王に任命され、本拠をリオ・デ・ジャネイロに置く、経済的には最悪状態となり、イギリス資本が流入する。
- 1770-76 *ブラジルの産金は世界の85%を占め、ダイヤも第一位となるが、ほとんどイギリスに吸収され、間もなく産出量は急減する。その反動として農業への投資再発する。同時に国内商業はようやく盛んとなり、各地の市場は統合され、国内経済発展に向う、綿花景気も出現し、サン・パウロ市は次第に家畜の中心市場となる。この頃ブラジルの開発は順調に進み、経済力は次第に母国を凌駕するに至る。
- 1776 サント・イルデフォンソ条約によりブラジルの国境決定される。アメリカ合衆国の独立はブラジルを刺激する。
- 1777 ボムバール侯追放され、ポルチュガルは反動に転じる。リオ・グランディ・ド・スール地帯の牧畜業次第に発展する。
- 1785 *本国より工業生産禁止令発布される。
- 1788-92 Tiradentes の独立運動勃発するが失敗に終る。当時の総人口は300万余、このうち奴隷は100万人と数えられる。

- この頃よりブラジルは乾燥牛肉の輸出を開始する。
- 1800 ヨーロッパはナポレオン時代に入る。この頃、ブラジルの経済活動は北部地方に砂糖、タバコ、綿花、東部には鉱業、南部は牧畜業を主体に単一生産の形体をとる。
- 1808-21 ナポレオンの侵略により、ポルチュガル王ジョアン六世はブラジルに逃避し、リオ・デ・ジャネイロ市急速に発展する。イギリスの勢力次第に増加する。
- 1809 ブラジルの政治・経済に関する新勅令（開放勅令）発布される。
- 1810 対イギリスとの通商条約成立し、過去三世紀にわたる封鎖的ブラジル市場（母国の独占）は始めて解放される。イギリスには*最低関税率（15%）を与える。イギリス商品はブラジル市場に氾濫し、ポルチュガルおよびブラジル産業は大打撃をこうむる。
- 1815 ブラジル帝国が宣言され、その政治地位は上昇する。イギリスの指導のもとに自由経済政策を採用し、外国移民を許可するほか、職業を自由化する。
- 1817 当時、ブラジルの高級官職は本国人が独占し、これにたいする反乱は各地に勃発し、とくにベルナンブコにおいて激化する。なお、王室はセズマリアを外国人にも与えるが、殆んどイギリス人の所有となる。この頃ブラジルの大地主制はほぼ完成する。
- 1820 イギリスの軍人摂政にたいする反感たかまり、これを打倒する。
- 1821 D・ジョアン六世は皇太子を摂政として本國に帰り、再びブラジルに圧迫を加える。皇太子D・ペードロー世の即位。しかし、新皇帝の絶対主義政策をめぐりことごとくに議会と衝突する。この頃よりコーヒー景気始まり、東部地帯に多くのファセンダ出現する。
- 1822 ブラジルの独立宣言。〔政治的独立〕
- 1824 初期のドイツ移民登場するが失敗に終る。
- 1826 ブラジル対イギリスの奴隷貿易禁止条約になる。ココア次第に開発される。
- 1825-27 対アルヘンチナ戦—ウルグアイ共和国誕生する。ブラジル財政は悪化する。
- 1829-51 Banco do Brasil, その他の諸銀行設立される。
- 1831 ペードロー世は退位し、皇太子を摂政として残す。この頃のコーヒー生産は世界の50%を占め、その労働者（移民コロノ）は次第に増加する。

- 1831-50 各地に革命、暴動が勃発し、一時は無政府状態となり、* Caudilismo 横行する。
- 1840 D. ペードロ二世の即位—各地の暴動は次第に平穏となる。この頃より、アマゾナスのゴム産業拾頭する。
- 1850 *「奴隷禁止協会」が成立し、間もなく奴隷貿易禁止法発布される。当時の年間奴隷売買は密貿易を含んで約5万人に達した。禁止法により奴隷貿易資本は次第に国内産業とくにコーヒーに投資され、他方「砂糖、綿花」は競争国の出現により急速に衰退する。
- 1850-52 対ウルグアイおよびアルヘンチナ戦、南部地方の軍人次第に勢力を得る。この
〔諸工業
の勃興〕 頃より大量のイギリス資本が流入し、鉄道、港湾などの建設始まる。
- 1860 この年代に初期の大企業家、Evangalista de Sousa, * E.F. Mauá など登場し、União e Indústria も建設される。* コーヒー産業は飛躍的發展に向い、コロノとしてイタリア移民激増する。
- 1864-70 ウルグアイと共に対パラグアイ戦を遂行、財政・経済的には最悪状態となる。
- 1870 共和党結成される。
- 1871 摂政イザベルは部分的奴隷廃止法に署名する。
- 1877
-1881 北東部は大旱魃にみまわれ、多数の人口はアマゾナスに移住する。
- 1884~ セアラ州は奴隷制を廃止し、これは他州に波及する。軍人クラブも同調する。
- 1888 * 摂政イザベルは奴隷廃止法に署名する、当時の解放奴隷数は約72万人と算定される。これにたいし、ノルデステの大地主は非常な不満をもつ、他面共和党が政界を支配す。
- 1889 軍部のクー・デタにより王制は廃止され、共和政国家となる各州の自治権を縮小、経済的自由化の拡大を進める。当時の人口は約1400万に達す。外国の諸産業さかんに進出する。〔経済的主権なる〕
- 1890 Pan American Union 結成される。
- 1891 * 第一次共和制憲法発布—最初の軍人大統領出現する。次代大統領の*「Flo-
rianismo」あらわれる。
- 1893-95 海軍の反乱勃発、とくに南部地帯は内乱状態となる。
- 1894 民間人のPrudente De Moraes (共和党) 大統領に選出され、サン・

パウロの勢力は増大し、国内の工業中心地に成長する。

- 1896-97 バイアにも反乱爆発するが鎮圧される。この頃外国移民は100万人に達し、コロノとしてコーヒー産業に従事する。同時に国内の間屋制生産も次第に発展する。これを*「商業革命」と呼ぶ学者が多い。
- 1900 アマゾナスにゴム産業勃興する。
- 1906 最初のコーヒー恐慌勃発—外国移民急減する。コーヒー統制始まる。(Taubatê Agreement)。(ブラジル、アルヘンチナ、ウルグァイ、ペルーの「サンデガリスト」、ベノス・アイレスに集会をもつ)
- 1908 日本移民も登場し、各国よりの投資次第に増加する、労働組合運動も盛んとなる。
- 1910-14 サン・パウロ市急速に発展、コーヒー恐慌の結果、各州は移民誘致のため土地分譲—小地主育成政策をとる。
- 1917 ドイツに對し、宣戦布告する。ヨーロッパの輸出は激減し、ブラジルに*軽工業中心の産業革命始まるが、同時にブラジル財閥の形成も発足する。また製鉄、鉱業さらに石油の開発もあらわれる。この年コーヒー景気は再発し、国際収支も著しく改善される。
- 1920 世界的コーヒー需要により、ブラジルは増産に転じる。この頃より米國資本の流入次第に増加する。
- 1922 共産党出現する。サンパウロ州は最富裕州となる。
- 1924-27 不況—サン・パウロ州、その他に反乱頻発、最初の世界恐慌の影響あらわれる。
- 1926 Washington Luis (共和党)が大統領に当選、道路その他の公共施設の開発に努力する。
- 1927-29 *膨大な外國資本が流入し、直接投資による大工場も出現するが、同時にブラジルの民間財閥も抬頭する。しかし、経済大恐慌が勃発し、「コーヒー」価格60%暴落する。
- 1928 第四回全米会議席上ラテン・アメリカは米國と對立する。
- 1930 陸軍のクー・デタによりLuis大統領は亡命し、Getúlio Vargas (南部地方を基盤)は勁労階級の支持により臨時大統領となり、国粋主義をとる。中央集権へ向う。この頃より外國資本に対する反発と大地主の勢力衰退が始まる。

- 1931 金融恐慌勃発し、多数の銀行は破産、深刻な経済恐慌となる。
- 1932 「憲法主義者」たちはサン・パウロの特権を主張し大動乱を起す。財閥および新興資本家次第に勃興する。人口の急増も目立つ。
- 1933 米大統領F. ルーズヴェルトは「善隣外交主義」を打出す。
- 1934 第二次共和国憲法発布され、ウルガスは上院より選出され大統領となる。「国民主義または国家主義」思想次第に抬頭する—Allianca 党結成される。
- 1935 「共産主義」革命—ベルナムブコ、リオ・グランデ・ド・ノルテ地方に勃発するが直ちに鎮圧される。
- 1937 軍部のクー・デタにより「新国家」体制が宣言され、ウルガス独裁期始まる—そして「全体主義的国内統一」を目指す。ブラジルは次第に工業化に向う。
- 1938 ウルガス大統領は「新国家主義 Estado Novo」を実行に移す。
- 1942 枢軸諸国に宣戦布告す。第二次世界大戦はブラジルに繁栄をもたらし国内諸工業は急激に発展する。中小企業の抬頭も次第にさかんとする。
- 1945 枢軸諸国の敗戦—「全体主義」の崩壊は、ブラジルにも影響し、軍部はウルガス大統領を辞職せしめる。
- 1946 第三次共和国憲法発布され、ブラジルは次第に中央集権を強化する。他面、コーヒー産業はよりやく行詰りをみせ、国際収支も急激に悪化する。SALTE計画発表される。ブラジル労働総同盟結成され、スト権を獲得する。
- 1947 共産党禁止となる。勤労者、農民、学生、ブルジョア—たちは「国民解放運動」を起す。
- 1950 ウルガスは人民投票により大統領に再選される。この頃より人口はさらに急増する。
- 1952 北東部に再び大旱魃発生し、多数の人口の南部移動が始まる。また財政インフレ—物価騰貴も始まる。
- 1954 軍部はウルガスの引退を強要し、彼は自殺する。この頃よりブラジル産業の目標は「工業と鉄」となる。
- 1955 クルゼイロ貨の暴落、経済恐慌勃発する。
- 1956 J. Kubitschek (ウルガス派) 大統領に当選する。多額の外国資本を導入するとともに「経済五年計画 METAS」を発表す。

- 1959 キューバの社会主義革命。
- 1960 新首都ブラジリアを建設し、奥地（鉱山）地帯の開発に乗り出す。同時に LAFTA を結成するが、国際収支は極度に悪化し、インフレはようやく重大化する。ケネディ大統領は「進歩のための同盟」を提唱する。
- 1961 革新党の J. Quadros 大統領に就任し、憲法を改訂し議会政治に向うが、6 カ月後軍部により辞任せしめられる。J. Goulart 大統領に当選し、社会政策、土地制度の改革、インフレ防止に努力する。各都市における外国および民間の独占資本ようやく顕著となる。
- 1963 国民投票により議会制度を廃止する。コロノの土地斗争激化する。
- 1964 Goulart は軍部のクー・デタにより追放され、代って Castelo Branco 元帥が上院の選出により大統領となる。
- 国家資本主義の抬頭、進歩的学者たちは追放に会い。計画経済推進される。農地改革院 (INBRA) を創設する。

： 主 要 参 考 文 献

- R. C. Simonsen: História Econômica Do Brasil,
5^a. 1962.
- C. Furtado: Formação Econômica Do Brasil,
6^a. 1964.
- C. Prado Jr.: História Econômica Do Brasil,
1962.
- J. P. Calogeras: A Formação Histórica Do Brasil,
1963.
- Gesellschaft Zur Verbreitung Wissenschaftlicher Kennt-
nisse: Deutsche Aussenpolitik -
(Sonderheft II/1961)-Gegenwarts-
probleme Lateinamerikas.
- A. L. Palácios: Nuestra América Y El Imperialismo,
1961.
- V. Tapajos: Manual De História Do Brasil,
3^a. 1962.
- R. de Babini, Los Siglo De La História-Tablas cronologicas,
1960.
- Grunde Enciclopedia-Portugal E Brasileira Vols.
1-XXXVIII, 1960.